

山陰海岸ジオパークの世界ジオパークネットワーク加盟審査の経過

2010. 9. 14

日本ジオパーク委員会事務局

1. 書類審査

2009年12月1日：申請書一式を UNESCO 本部の GGN 事務局へ JGC 事務局を通じて提出した。

2010年4月14日：ランカウイジオパークにおける第4回ジオパーク国際ユネスコ会議の際に、GGN Bureau から書類審査通過の連絡を受け、現地審査の日程を調整した。同時に審査を行った申請書の中で、評価の高いグループの一つだったとそうである。

同年5月28日：ジオパークとしての糸魚川と山陰海岸の違いをまとめた追加資料作成の指示を受けた（現地審査の際に提出）。

2. 現地審査

2010年8月1-4日

現地審査委員

Dr. Nickolas Zouros : GGN bureau, European Geoparks Network (EGN) Co-ordinator, Department of Geography, University of Aegean

Dr. Patrick McKeever : GGN bureau, EGN Vice Co-ordinator, Geological Survey of Northern Ireland

評価された点：興味深いジオサイトが多数あり、教育・ジオツーリズム・地域振興・広報に関して市民向けの様々な活動が行われている。施設、遊歩道、遊覧船などジオパークを見て回るためのインフラも整備されている。解説板は専門用語が少なくわかりやすい。豊岡のコウノトリと湿地の関係は、ジオと生物多様性の関係、ジオ・生態系・人間の共生関係を示す良い例である。ジオパークのロゴ、マスコットがうまく活用されている。

指摘された改善点：全体で一つのジオパークであることをさらに意識して欲しい。コウノトリとジオのつながりのように、ジオサイトと他の自然・文化遺産とのつながりをうまく組み合わせることでさらに関係づけて見せてほしい。ジオサイトの取捨選択にあたっては、日本人にとっての価値だけでなく、世界の人から見た価値を考えることが大事である。

今後に向けてのアドバイス：GGN メンバーとなったら、ネットワークの一員としての自覚を持ち、世界の他のジオパークと積極的に協力関係を築くことが重要。他の3つのジオパークと協力して、日本国内の各方面からジオパークに支援を得るための活動をおこなってほしい。

3. 今後の予定

本年10月1-5日にギリシャのレスボス島で開かれるヨーロッパジオパークネットワークの国際会議の際に、GGN Bureau meeting があり、そこで最終決定が行われる。山陰海岸ジオパークからも1人参加し、委員の質問に答えることができれば、より審査がスムーズに進むのでそうしてほしいとの要望が出たため、山陰海岸ジオパークから3名が参加する予定である。JGC 中田委員、事務局渡辺も参加予定である。

以上